

2025

12-1月

はしかけニューズレター

2025 年度 第 5 号 通巻 186 号

2025 年(令和 7 年)12 月 11 日 発行

編集・発行: 滋賀県立琵琶湖博物館 環境学習・交流係 (はしかけ担当職員: 金尾・大久保・太尾田)

住所: 〒525-0001 滋賀県草津市下物町 1091 電話: 077-568-4811 ファックス: 077-568-4850

電子メール: hashi-adm@biwahaku.jp 琵琶湖博物館ホームページ: <https://www.biwahaku.jp>

～ 目 次 ～

1. 事務局からのお知らせ

2. はしかけグループの活動報告と活動予定

- (1) うおの会 (3) 淡海スケッチの会 (4) 近江はたおり探検隊
(5) 大津の岩石調査隊 (6) 温故写新 (7) 暮らしをつづる会 (8) 古琵琶湖発掘調査隊 (9) 里山の会 (10) 植物観察の会
(11) たんさいぼうの会 (12) 田んぼの生きもの調査グループ (13) ちっちゃなこどもの自然あそび(ちこあそ)
(14) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会 (15) びわたん (16) ほねほねくらぶ (17) 緑のくすり箱 (18) 虫架け (19) 森人
(20) 琵琶湖梁山泊 (21) サロン de 湖流 (22) 水と暮らし研究会 (23) 海浜植物守りたい

3. はしかけさんが活躍する琵琶湖博物館イベント情報(12～2月)

4. 生活実験工房からのお知らせ

5. その他の事項

会員数 ... 422人

グループ数 23グループ

(2025年12月11日現在)

1. 事務局からのお知らせ

年の瀬が近づき、冬の寒さが本格的になってきましたが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。

本号では、10月・11月の活動を中心に、特に11月に開催されたびわ博フェスの様子をたっぷりとお届けいたします。はしかけ会員の皆さまや関係者のご協力により実現したイベントの熱気を、ぜひ誌面から感じていただければ幸いです。

以下は事務局からのお知らせです。

■びわ博フェス 2025 について

11月15日(土)、16日(日)に、びわ博フェス 2025 を、無事に開催することができました。晴天に恵まれた2日間でした。

はしかけやフィールドレポーターの皆様には、ワークショップ、展示交流、ポスター展示、ステージ発表など様々なご活躍いただき、本当にありがとうございました。来館者との交流の中から発見があったというお声もいただき、担当者としてもうれしく思いました。ワークショップなどを楽しんでいた一般来館者の方にとってだけでなく、出展いただいた皆様にとっても有意義な機会となったことを願っています。

例年の恒例イベントとなってきたびわ博フェスですが、ここをこんな風に工夫したらどうか、もっとこんなことをしたいなどなど、皆様からのご意見がありましたら、ぜひお寄せください。来年度に向けて、また準備を進めて参りますので、引き続き、どうぞよろしくお願い申し上げます。

■フィールドレポーター調査ご協力ありがとうございました (フィールドレポーター事務局)

8月8日から11月20日まで実施していた2025年度第1回フィールドレポーター調査「水辺の魅力調査」が無事終了しました。開始すぐに多くの方からの調査票が届き、滋賀県における水辺の大切さや、皆様が水辺に親しんでいることが感じ取れました。現在、送っていただいた調査票の集計、考察を進めています。調査結果はフィールドレポーターだよりや、交流会でお知らせする予定です。楽しみにお待ちください。

■はしかけ登録講座開催のお知らせ

今年度最後のはしかけ登録講座(第4回 オンライン)を、2025年2月23日(日)～3月9日(日)に開催します。お近くにはしかけ登録をご希望の方がいらっしゃれば、ぜひ講座の開催をご案内ください。

なお、受講の申込み期間は2025年12月12日(金)～2026年2月20日(金)迄となっておりますので、ご注意ください。

※お申し込みは琵琶湖博物館ホームページのイベント情報(セミナー)に掲載のリンクからお願いいたします。

https://www.biwahaku.jp/event/2026/02/post_2035.html

■第33回企画展示「川を描く、川をつくる—古地図で昔の堤をさぐる—」について

企画展示についても、11月24日(日)に好評のうちに終えることができました。多くの方にご来館いただき、ありがとうございます。企画展示では、博物館での研究成果を中心に毎年多様なテーマの展示を開催し、「琵琶湖のさまざまな魅力を発信」していきます。次回の企画展示もぜひご期待ください。

2. はしかけグループの活動報告と活動予定



(1) うおの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 40名】

グループ担当職員: 田畑 諒一、川瀬 成吾

【活動報告】

■11月15日(土) びわ博フェス 2025 への出展

場所: 琵琶湖博物館 セミナー室

うおの会参加者: 12名

来場者: 約60名

恒例のびわ博フェス出展。うおの会は「お魚キーホルダーを作ろう」と題して、琵琶湖の魚をデザインしたプラバン工作教室を行いました。9時に集合し、開始に向けて慌ただしく準備開始。今年は例年と異なる部屋で、さらにお隣では別のワークショップが行われている、という中での開催でした。

博物館開館の9時半になるや、整理券を求める来館者が続々と来始め、結果的にはイベント開始直後の10時過ぎには全3回の席がすべて埋まるという人気ぶりでした。

開始後は大した事前打合せもしていないのに受付係、説明係、制作補助係、トースターでの焼き係、ストラップ取り付け係、などにうまく分かれ、次々に作品が完成して行きます。今年は魚の下絵に新作がいくつか加わり、その中でもビワコオオナマズが特に人気でした。思えば10年以上、この形で出展してきましたので、運営が円滑なもの当然ですね。

イベント中に立ち寄って下さった博物館職員から「うおの会のワークショップには毎年沢山の人の参加があって、感謝しています」と言われ、少しは博物館事業に貢献できたかな、と嬉しく思いました。(文責: 中尾博行)

■11月16日(日) 第194回定例調査

場所: 草津市～守山市の堤脚水路など

参加者: 28名

前日のびわ博フェスに続き、日曜日は定例調査でした。朝から雲ひとつない秋晴れで、昼には着込んでいた服を脱ぎ、暑い暑いと言いつつ調査となりました。

参加者は28名とかなり多く、4班に分かれて調査しました。フナ稚魚、モツゴ、コイ、ニゴイ、オイカワ、ヌマムツ、ドンコ、ヨシノボリ、ウキゴリ、オオクチバス、ブルーギル、カダヤシ、ヌマチチブなどの魚種が確認されました。

琵琶湖の水位と連動している堤脚水路の様子をみながら、泥まみれ、水がほぼ無い、止水(死水!)など、厳しい状況下での調査となりましたが、一定数の魚が確認され、初参加の方からも楽しかったとの声を聞くことができました。調査範囲が琵琶湖に近いこともあり、外来種と多く遭遇した班もありました。

来月は今年最後の調査となります。体調など気をつけて来月の調査への参加、お待ちしております。(文責: 竹元冴矢)



フナ類の稚魚(11月)



湖岸道路沿いの堤脚水路(11月)

■今後の予定

1、2月は室内での勉強会、3月は総会を予定しています。詳細はメールにてご連絡します。



(3) 淡海スケッチの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 12名】

グループ担当職員: 桒永 一宏

【活動報告】

■ 2025年 10月 26日(日) 琵琶湖博物館 参加者 6名
オープンラボでスケッチ。博物館敷地で吟行句会もしました。

■ 2025年 11月 23日(日) 琵琶湖博物館 参加者 6名
オープンラボでスケッチ。博物館敷地で吟行句会もしました。

【活動予定】

○ 2025年 12月 21日(日) 琵琶湖博物館

各々、館内でスケッチを行います。俳句をされる人は敷地内で吟行。
後にオープンラボで句会を行います。

活動時間 10時30分～(15時)

来年の予定についてミーティングもします。

○ 2026年 1月 25日(日) 琵琶湖博物館

オープンラボや敷地内でスケッチや吟行を行い、午後は句会も予定しています。

活動時間 10時30分～(15時)

※持ち物/スケッチブック、鉛筆、水彩絵の具等、スケッチの道具。
俳句をされる方は、それぞれ吟行に必要なものをお持ちください。

○ 博物館 de 俳句

秋から初冬にかけて、博物館周辺では茶の花や石蓴(つわ)の花、
躑躅(つつじ)の帰り花も見ることができました。

11月23日 句会報告

カトレアのゆれて建前はここまで 隆行

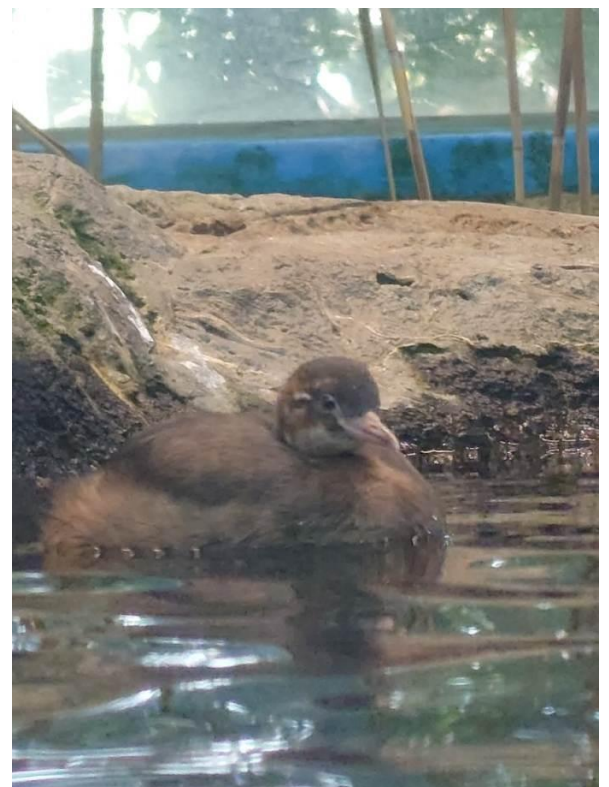
頭を揃へ浅瀬啄む冬の鳥 稚鮎

浮かぶ鴨波に揺られて見え隠れ 巳刻

竹箒犬ほうずきの実のゆたか 諸子

冬はじめ茎を伸ばして仏の座 桜子

☆ 写真の鳥はカイツブリの幼鳥です。





(4) 近江はたおり探検隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 16名】

グループ担当職員:大久保 実香

【活動報告】

<織姫の会>

■10月8日(水) 参加者:5名

本日はYouTube 撮影。カラムシの芋績み、綿は綿くりから糸紡ぎ、地機の機織りまで紹介しました。午後からは地機織りのときにこわれた中筒の修復をしました。ボンドで固めたので、しばらく放置です。



10月8日中筒の修理

■10月25日(土) 参加者:2名

びわ博フェスに向けて、カゴの試作。今年とったクルミを四つ目編みにしてみました。ちょっと難しいため却下しました。

■11月5日(水) 参加者:2名

びわ博フェスで使う材料の準備。幅と長さをそろえて、セットを組みました。ぎりぎり10人分しかないので、要検討。

<その他>

■11月16日(日) びわ博フェス「樹皮でちっちゃなカゴを作ろう」

参加者:3名、体験者10名

クルミやコウゾ、クワ、イタヤカエデなどの樹皮で小さいカゴを作りました。小学校低学年の子どもさんでも上手にできました。材料がもう少し多く準備できたら、募集人数も増やせたのですが...なかなか難しいです。



11月16日びわ博フェス

■11月22日(土) 大津の羅織作家さんの工房見学 参加者:2名

大津の羅織作家、宮畑勇さんの工房に見学に行きました。工房自体はもう稼働していませんが、高機が並ぶ様子、ジャガード機や整経機などを使っていたようすを教えてくださいました。

■11月23日(日) 文化庁日本の技フェアの見学(福井県鯖江市) 参加者2名

文化庁の選定保存技術に認定されている団体が、デモンストレーションや展示、ワークショップをするというので、福井まで行ってきました。はたおりに関係するのは、竹箴や宮古上布、紅花染めなど。宮古の芋績みも習いました。

他にも、色々な団体の方に詳しく説明していただいて、とても面白かったです。現在活動中の団体ばかりなので、若い方も多く、世代交代もうまくできているようでした。ただ、どこも原材料の入手や、将来を見据えた持続可能な状況を作るのに苦労しているそうです。考えさせられるお話をいっぱい聞くことができました。



11月23日 文化庁日本の技フェアの
宮古上布

【活動予定】

■織姫の会

12月10日(水)、20日(土)、1月28日(水)

1月16日(土)わくたんと共催「綿に触れてみよう」

(文責:辻川智代)



【活動報告】

■2025年10月の活動

○野外調査 湖東、雪野山南東部斜面の林道沿いの岩石調査

日時:10月19日 10時~15時 参加者 5名

<調査目的>

雪野山は、文献では全山、瓶割山溶結凝灰岩からなっている。今まで安土竜石山(個人的に)や織山の観察をしたことから、湖東地区の他の山々の岩相にも関心があつた。航空地図により雪野山南東部斜面に平地から中腹まで林道が縦横に開削されていることが分かり観察に適していると考え調査を計画した。また、以前に竜石山でシラーの出る月長石を含む安土溶結凝灰岩を採集したことから、雪野山の鉱物にも興味もあつた。他方、雪野山の岩石は変質が進んでいるという情報もあり、織山等と比較調査する。

<調査結果の概要>

- ① 林道は開削されてから年月が浅いと思われ、山側壁面の露頭が良く観察できた。
- ② 全体的には変質の進んでいる部分が多く、激しいところでは、赤い地に白い脈状に枝が伸びたような部分も数か所あつた。白い脈は粘土状で、カオリナイトのように見えた。
- ③ 部分的には変質がなく非常に硬いところもあつた。この変質のない部分の岩相は、織山で観察したものと同様の深緑色の石基に石英や長石の斑晶が含まれていた。長石ではシラーの見られるものは見つからなかった。
- ④ 織山と同様、雪野山の瓶割山溶結凝灰岩は変質のない部分でも表面からの酸化が進行し、開削時に新鮮であつたと思われる表面から10mm程度内部まで錆色となっている物もあつた。
- ⑤ 一方、溶結構造を示すとされる本質レンズは見つけることができなかった。
- ⑥ 一部領域で、溶結凝灰岩とは全く異質の部分を見つけた。一種の礫岩で、含まれる礫には、川で形成されたと思われる数センチサイズの円礫が多く含まれ、それらにはチャートや石英が認められた。
- ⑦ 節理に沿って熱水が浸入したと思われる部分を観察すると白っぽい鉱物が析出していた。沸石や玉滴石(半球形の集合になっている)の類ではないかと思われる。(後日、長波の紫外線ランプで蛍光が確認された)

<感想>

礫岩の部分が本調域にあるのが不思議である。形成時代は全く異なるが、富山県南砺市の人喰谷は月長石含有の溶結凝灰岩が見られることで有名で、そこに正珪岩の円礫を含む礫岩層が接触しており、溶結凝灰岩は礫岩層の上位に存在するそうである。この類似性に何かヒントがあるのか、興味を引かれる。

○びわ博フェスに参加

日時:11月15日・16日

場所:琵琶湖博物館 アトリウム 参加者 8名

1. ポスター展示 大津の岩石調査隊の発足から現在までのポイントと最近の活動状況を記した。今回はポスター展示場の活性化と隊員間、他のメンバーとの交流を図るべく、展示ポスターの説明をした。相互理解とにぎやかな効果はあつた。
2. 10分間トーク 本題を纏めている中で、当隊が2014年に発足できたのも、継続できたのも「はしかけ」制度の素晴らしさと、隊員の好奇心と高度な保有諸知識と多様な技能に寄っていることを改めて感じ、PRLした。

■今後の活動予定

○岩石持ち寄り勉強会 1月

○地学研究発表会 2月

○体験学習プログラム【わくわく探検隊】 3月14日(土)

以上

【活動報告】

○活動日 11月15日(土) 16日(日)

○参加者 7名

○活動内容「びわ博フェス」への参加と記録写真撮影

- ・「温故写新」発足20周年にあたり、今までの活動記録の展示
- ・メンバーが撮ったお気に入りの写真をモニターで展示
- ・記録写真係として「びわ博フェス」の展示や各種イベントの撮影
- ・展示パネル前で来館者との交流

※前回のニューズレターで予定として記載した12月14日(日)の撮影会は中止とします。

※次回活動予定 2026年1月24日(土)10:00～ 琵琶湖博物館入口集合

活動内容:撮影会「烏丸半島の冬」



(7) くらしをつづる会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 2 名】

グループ担当職員:大久保 実香

【活動報告】

びわ博フェス 2025 で、琵琶湖近くに暮らしておられる、おばあちゃんに近江大橋ができる前の暮らしについて、お話をお聞きした記録の展示を行いました。

水路を舟で琵琶湖まで行き来し、魚を取ったり、荷物を運んだり。

ご苦労もあったと思いますが、豊かな生活でもあったのではないのでしょうか？今、聞かないと失われる生活の記憶です。今後も、ぼちぼち、おばあちゃん、おじいちゃんのお話をお伺いしたいと思います。(中尾)

【活動予定】

地域の人に話を聞いてまとめてみたい、自分史を書いてみたいなどのご関心がある方は、担当学芸員までご連絡ください。(大久保)



(8) 古琵琶湖発掘調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 8名】

グループ担当職員:山川 千代美

【活動報告】

■びわ博フェス 2025 でのポスター展示

日時:11月15・16日(土・日)

場所:琵琶湖博物館アトリウム

11月15・16日のびわ博フェス2025では、古琵琶湖発掘調査隊はアトリウムでのポスター展示に参加しました。

ポスター前にて、ポスターに興味を持ってくださった来館者の方に、活動の内容を詳しくお伝えすることができ、活動に興味を持っていただくことができました。また、他のはしかけグループの方と、お互いにグループのポスターを見ながらそれぞれの活動について説明しあい、とても楽しく交流することもできました。

■咽頭歯化石の勉強会

日時:11月23日(日) 10:00～12:00

場所:琵琶湖博物館実習室1 参加人数:8名



古琵琶湖発掘調査隊のポスター

活動内容:講師に中島先生をお招きし、咽頭歯の形態や咽頭歯化石の見方などを教えていただきました。

これまで咽頭歯化石を発掘しても、その咽頭歯は左右どちらの歯なのか、前から何列目の歯なのかということを意識出来ておらず、発掘したこと自体に満足し、なかなか次のステップに進めませんでしたが、今回の勉強会をきっかけに、今後、咽頭歯化石を発掘した際、どこの部分の咽頭歯か、その根拠となる特徴は確認できるか、何の種の咽頭歯化石と考えられるかなど、次のステップに進められるよう頑張っていきたいと思います。



咽頭歯の形態などの解説



解説後、咽頭歯化石の特徴の確認

【活動予定】

■12月21日(日)13:00~16:00

粒度表作成、発掘した化石のクリーニング・同定作業



(9) 里山の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 22名】

グループ担当職員:奥田 岬

【活動報告】

■10月11日(土) 秋の里山体験教室 下見 会員9名

野洲市大篠原にて秋の里山体験教室の下見を行いました。里山体験教室を開催する時期は毎年同じですが、里山にある木の実のなり具合やキノコの出方、ドングリの量などは年によって変わるため、本番と同じルートを散策しつつ確認しました。道中クリやアケビの実、アサギマダラなども見ることができました。

また、里山整備を行う場所や内容についても確認を行いました。



■10月19日(日) 秋の里山体験教室 本番 会員6名、一般参加者11名

天気が心配されましたが、無事開催することができました。午前中に春とは違う場所を散策に行き、木の実やキノコなどを見つけました。下見の時よりも多くの種類のキノコが出ていました。また、「自分が気になった葉っぱを5枚以上」と「ドングリ」を集めながら散策してもらいました。

午後からは散策で集めたものを使って葉っぱじゃんけんとドングリごまづくりを行いました。葉っぱじゃんけんでは、「ギザギザが多い葉っぱ」などのお題に沿って、各自で集めた葉っぱを見せ合いっこしました。ドングリごまづくりでは、楊枝の種類や刺し方を変えるなど、よく回すにはどうしたらよいか工夫しながら作成できました。

また、里山の整備として灌木整理と竹林整備を行いました。里山の管理にこれらの整備は不可欠です。実際に体験してもらうことで、整備の大変さや重要性を学んでもらいました。



■11月15日(土) びわ博フェス ワークショップ 会員7名、一般参加者45名

昨年と同じように、里山のお仲間であるヒノキの香りを楽しむことをテーマに、すべすべヒノキづくりにトライしてもらいました。今年は、少し工夫をしてヒノキの材だけでなく、樹にも親しくなってもらうために、工房そばのヒノキの現物を観察しました。

つくる方は、彦根荒神山の径10cm程のヒノキ幹を、ノコギリで輪切りし、粗から細の3つの紙やすりで磨いてヒノキグッズを各自仕上げます。持ち時間は、切るところから始めて45分、完成は持ち帰ってからのの方が多かった様ですが、それが楽しみのおみやげになっていたらうれしいですね。

参加者の感想は、木のにおいが良かった、磨くのが楽しかった、木を切る体験が良かった、ヒノキの木を初めて見たなど。スタッフの感想は、参加者の声を聞けたり、木を切る姿を見られたりするの楽しい。これからも続けて行きたい。参加者が楽しそう、私たちも楽しかったですなど。

もちろん、実際の里山での体験は重要ですが、フェスでの参加者とのやり取りを広げて、里山体験ミニ版・入門編を博物館の森で開催することで、里山関係人口を増やすことにつながると思いました。(少し前から思っていました…)

これからも、「里山の会」・「びわ博」が多くの人たちと「里山や森とのかけはし」になりますように、共感の輪が広がっていきますように…



【今後の活動予定】

12月6日(土) しめ縄づくり

1月10日(土) 冬の里山体験教室 下見

1月18日(日) 冬の里山体験教室 本番



(10) 植物観察の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 3名】

グループ担当職員: 芦谷 美奈子

今年は、10月末から急に寒くなり、鈴鹿山脈は11月19日に初冠雪。秋の紅葉はやっと麓までやってきた。

年々、温暖化が進むせいか、春や秋を楽しむ時間が短くなってきている。世間では「二季」になってきているとまで言われているらしい。でも、植物たちは、遅れたり早まったりしながらもちゃんと咲いてくれるので、楽しみには事欠かない。

【活動報告】

10月 5日(日) 「河辺いきものの森」 東近江市 雨天中止 参加者0名

11月 2日(日) 「みなくち子どもの森」 甲賀市 9:45~13:00 すぎ 参加者3名

前日の雨(かなり強く降った)も上がり晴れたが、地面は濡れている。気温14~18℃、暖かい。

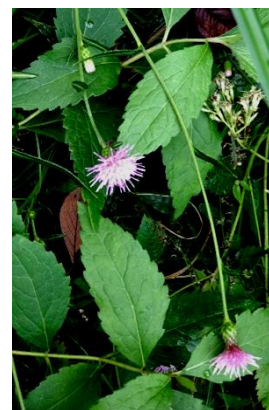
駐車場横のゲンショウコ(花)、カラスザンショウ、ツガ(実)、コブシ(実が落ちている)を見てから、濡れていても歩きやすい道へ。センニンソウ、ガガイモ(実)が近くにあり、葉脈や葉の付き方を比べた。歩きながら、イヌホオズキの実の付き方を観察。実の柄の基部がずれているか同じ所から出ているかで、在来種かそうでないかを区別できると聞いたため、3人であちこち見たが、1つの個体の中でも基部がずれているものと同じ所から出ているものがあり、やはり実のつきかただけでは在来種と外来種の区別はできないとあきらめた。

ソヨゴ(実赤い)、クサギ(実、藍色)、エノキ、コナラ(実多い、大きい)、ヒヨドリバナ(花)、ヨシノアザミ(花)、クチナシ(幼苗)、クリ(実多い、大きい)、キツネノマゴ、マテバシイ(実)、カラタチ(実)(葉にアゲハの幼虫3匹)、アカガエル、チジミザサ(花、かわいい)などを見ながら歩いた。カラムシ、ヤブマオが隣り合わせていたので、両者を比較。草刈り後に出てきたらしく花も実もない状態で、カラムシの葉裏が白いことしか比べられなかった。これらから採れる「ちょま」と呼ばれる繊維は、かなり古い時代から麻と同様に使われていた(正倉院展に行ったときに見た)。麻と比べてかなり背丈の低い植物から繊維を採る作業を思うと、その根気良さや労力のきつさを感じてしまう。

そうこうして、やっと目的の場所へ到着。

11月に咲くキッコウハグマの花を見に来たのだが、全く咲いていない！ 先が薄紫になっている蕾もあり、30以上の株を見たが、あー！ (＞_＜) 全然ダメ。キッコウハグマ(蕾)、コウヤボウキ(花)、ヤブタバコ(花)、チゴユリ(実、青黒い)、ウグイスカグラ、ホソバシオデ？(ここでは初めて出現したので、来年花を見ないと確信できない)、ササユリ(実)だけ見て帰路へ。

目的のものは見られなかったが、メンバー同士で観察しながら歩くのはやっぱり楽しい。



帰り道で、コカメヅル(実多い)、ヤマノイモ(実、割って観察)、クロイワマイマイを見つけ観察し、13:00 過ぎに解散。



【今後の活動】

- 月に1回、第1日曜日の午前または午後を予定しています。
- 外部へのお出かけの場合は、これに限らず、変則的になります。
基本的には、危険が無く雨でも歩ける所で、大雨や警報が出ない限り「行方」方向でいます。
- 8月、2月は、例年お休みしています
- 12月7日(日) 都合により中止
- 1月11日(日)「持ち寄りの観察」 博物館実習室など 10:00~12:00 すぎ
- ※ 新型コロナウイルス、インフルエンザ等の感染拡大等によっては、お休みになることがあります



(11) たんさいぼうの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 10名】

グループ担当職員:大塚 泰介(影の会長)

【活動報告】

会員の畑中顕さんが中心になって書いた論文が、珪藻学会誌 Diatom に受理されました。ただしこれは主として畑中さんの大学院での研究成果なので、たんさいぼうの会名義にはなっていません。滋賀県大の環濠など水路網の中で見つかった珪藻を計174分類群も示し、そのうち155種を種レベルで同定して報告しています。150種を超える珪藻の報告は、河川全体を対象とした報告でもなかなか見当たりません。電子出版が11月に間に合わなかったもので、詳細は次号で紹介します。

Hatanaka A, Inoue M, Izumino H, Yoshiyama K, Negoro T, Ohtsuka T (2025) Diatom Flora in a Channel fed by Lake Biwa on the campus of the University of Shiga Prefecture, Japan. Diatom 41(in printing).

11月15日・16日に行われたびわ博フェスでは、たんさいぼうの会は2枚のポスターを掲示するに留まりました。例年、琵琶湖の小さな生き物を観察する会と連携して、マイクロアクアリウムを占拠するのですが、今回は学会と重なったこともあり参加できる会員がおらず、琵琶湖の小さな生き物を観察する会の単独開催となりました。また、アトリウムのポスターが1グループ1枚に限定されていたので、上記の畑中さんがつくったもう一枚のポスターをマイクロアクアリウムにゲリラ展示しました。

たんさいぼうの会のウェブページを、会長補佐の富小由紀さんが中心となって構築中です。今年度中くらいにはお披露目できると思います。

他にも野田沼・曾根沼(彦根市)の珪藻、瀬田公園(大津市)の珪藻など「たんさいぼうの小さな旅」で採集してきた珪藻の報告や、堅田内湖(大津市)、千種川(兵庫県)、黒沢湿原(徳島県)の珪藻研究も、少しずつですが進めています。

【活動予定】

1月に新年会を予定しています。日程は調整中です。



(12) 田んぼの生きもの調査グループ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 7名】

グループ担当職員:鈴木 隆仁

今年は10月半ばまで暑い日が続いたと思ったら、急に寒くなりました。ヒトにはつらい気温変化となりましたが、卵の形で休眠中のカイエビ類やカブトエビにはこの気温変化は影響しないと思われます。しかし、この夏の高温はエビ類の生態に影響を与えた可能性があります。来年度はエビ類の発生に十分注意する必要があるでしょう。

【活動報告】

・10月13日に、博物館の実習室で今年の調査の結果報告会を開きました。今年度は、東近江、甲賀を中心に野洲、守山、栗東など9市町の総計582筆の田んぼを調査しました。その結果、新たに18の地点でカブトエビ類が発見されました。ここ数年、飛び地としてアジアカブトエビが見つかる旧安土町南部では、麦への転作により昨年調査できなかった2筆で今年新たにアジアカブトエビが見つかり、安定してアジアカブトエビが生息していることが確認されました。

一方、カイエビ類については、①ヒメカイエビは大津市の1地点を除いて本年度の調査地点で生息は確認されなかったこと、②近江南部(野洲市以南)ではタマカイエビの新たな生息地はみつからなかったこと、③東近江はカイエビが主でトゲカイエビの生息地はわずかしき確認されなかったこと、④近江南部の調査地ではカイエビよりもトゲカイエビが優勢であったことなどが報告されました。

ただし、これらの結果はいずれも1地点1回きりの調査結果であり、カブトエビ類、ホウネンエビ、カイエビ類の発生時期には違いがあると思われることから、複数種がみつかる可能性がある筆について、来年度以降定点調査を行うことが提案されました。

また、7月に実施した同定会でカイエビとトゲカイエビの同定間違いが一定数あったことを受け、両種の特徴を再確認しました。カイエビとトゲカイエビを直感的に見分けるには、殻の形状よりも摘まんでみたときの厚みのほうが参考になることを再確認しました。

報告会終了後に、博物館屋上の簡易水田の稲を刈り取り、水抜きをしました。

・滋賀県レッドデータブック 2025 年版に掲載予定のヒメカイエビ属の一種について、山川代表がこれまでの調査結果をもとに原稿を作成し提出したことが報告されました。

・11月15,16日に開催されたびわ博フェスでは、これまでの調査結果をまとめたポスターを展示しました。

・11月16日に屋上簡易水田の土を耕し、コンテナの底まで風を通す作業を行いました。

【活動予定】

来年3月の総会まで活動は休止です。

(石井千津)



(13) ちこあそ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 6名】

グループ担当職員: 中村 久美子

※一般参加は、びわ博ホームページからのオンライン予約制です。また 10 時から 14 時までの一日の活動としています。
(お子さんの様子に合わせて、いつ来ても、いつ帰っても OK です。)

【活動報告】

◆10月の活動 10/15(水) 9組(幼児12名、大人9名)

10月になりましたが、まだまだ暑さが残り、子どもたちは半袖姿、生き物たちも姿を見せてくれます。クスノキにはアオスジアゲハの幼虫やサナギ、キンカンにはアゲハの幼虫と卵、草むらにはアカハネオンブバッタ、カタツムリ、ナガグロクチバの幼虫、キリギリスの仲間、オオムカデなどたくさんの生き物に出会いました。(ムカデは慎重に飼育ケースで観察しましたので、ご安心ください)

田んぼで泥にはまったり、工房の裏の森へ探検に出かけクズのながーいツルをみんなで引っ張ったり、ガチャコンポンプで水遊びしたりと、たっぷり生活実験工房の自然を楽しみました。

サツマイモを掘ってみましたが、もう少しかなあという成長でしたので、芋掘りは来月のお楽しみに。落花生はいくつか出ていました。あのピーナッツは土の中にできるんやとビックリでした。

◆びわ博フェス 11/15(土) 午前 90 名、午後 100 名 びわ博フェス特別版「落ち葉のスタンドグラスづくり」

たくさんの来場者があったびわ博フェス。ちこあそコーナーにも多くの方が来場くださりました。今回のちこあそは、黒い画用紙にパンチで好きな穴を開けて、落ち葉を貼り付ける「落ち葉のスタンドグラスづくり」です。サクラ、モミジ、ナンキンハゼなど、赤、黄、茶に色づいた葉っぱを拾って貼り付けて、お日様に透かすと、「あれーめっちゃキレイ！」それぞれ自由に自分の作品を作って持ち帰ってもらいました。保護者の方にはちこあその活動紹介もして、多くの方にちこあそのこと、博物館の自然の面白さを伝えました。

◆11月の活動 11/19(水) 10組(幼児19名、大人11名)

ちこあそメンバーが増えました！長らく少人数活動だったのですが、今回はしかけ登録講座を受けられ、ちこあそに入りたい！という方がおられ、一緒に活動に入ってもらえました。これからもメンバー募集中です！

春に苗を植えたナルトキントキ、ベニハルカ、アンノウイモ。みんなで掘ってみました。バンダナおじさんが大きなショベルで堀り、子どもたちが探すと。。。出て来ました！とても可愛いサイズですが、バケツにいっぱい収穫しました。焼き芋にしたいね。

また、森にはイチイガシのドングリが落ちています。お母さん、お父さんに「食べられるドングリですよ」と伝えると、みなさんビックリ。ドングリにはいろんな種類があって、食べられるもの、食べられないものをお話すると、またビックリ。自然の食の面白さを伝えています。

◆ちこあその絵本をプレゼントしています

ちこあそで、自分で作るスタンプカードがあります。3回スタンプがたまると、ちこあその絵本がもらえます。お家で絵本を読んで、室内でもちこあそを思い出して欲しいとの思いです。ぜひ3回来てください。



10月 ザクロの実がなったよ



10月 アオスジアゲハの蛹



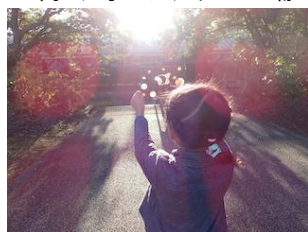
10月 生き物観察中



10月 田んぼにはまっちゃった



11月 びわ博フェス



11月 びわ博フェス



11月 ちこあそ絵本第2弾相談中です



11月 芋掘り

今回のちこあその報告は、代表の池田勝(まっちゃん)が担当しました。

【今後の活動予定】

びわ博ホームページで2か月前から参加予約ができます。8月はお休みです。

活動月	実施日、時間	タイトル	内容
12月	12月17日(水) 10:00-14:00	ちこあそ12月	定員10組 予約制です。びわ博イベントHPからお申し込みください。 毎月おおそ第3水曜日に行っています。
1月	1月28日(水) 10:00-14:00	ちこあそ1月	ルーペでの自然観察、森の探検、ガチャコンポンプの水遊びなど やさしい自然遊びを子どもや保護者の方とゆっくり、ポチポチ過ごします。

はしかけの新しいメンバーも飛び入りも大募集中です。一緒に子ども達と遊びましょう！



(16) ほねほねくらぶ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 13名】

グループ担当職員:半田 直人、松岡 由子

【活動報告】

■10月11日(土) 参加者:2名

カミツキガメの解剖、鳥の仮剥製の制作を行いました。

■10月26日(日) 参加者:4名

カミツキガメの解剖、カラスの仮剥製制作、タヌキの解剖、豚足の骨のクリーニングを行いました。

■11月8日(土) 参加者:2名

カラスの仮剥製の制作、豚足の組み立てを行いました。

■11月16日(日) 参加者:2名

琵琶湖博物館において開催された、びわ博フェス 2025 において来館者の方との交流活動を行いました。

私たちは大人のディスカバリールームを使用させていただいて、シカの骨を触ってもらうプログラムを行わせていただきました。

■11月23日(日) 参加者:3名

マンガースの解剖、カミツキガメの解剖を行いました。

マンガースはこれまでの活動では、なかなか取り組む機会のない種類の動物だったので、いろいろと資料を探してみながらの作業となりました。

身の回りにいないような動物の場合、情報に触れる機会も少ないので、いろいろな資料を見てみて、興味深い情報に出会えると、なんだかそれだけでも楽しく感じられます。

【活動予定】

12月の活動予定日は6日(土)と14日(日)を予定しております。

1月の活動予定日は現在未定ですが、月に2、3回の活動を予定しております。



(17) 緑のくすり箱

【活動報告日の活動会員数(のべ) 20名】

グループ担当職員:大槻 達郎

【活動報告】

■11月11日(火) 午前 参加者:7名(一般の参加者:4名程度)

活動内容:季節の植物でアロマウォーターを作ろう(琵琶湖博物館 生活実験工房)

秋開催の「季節の植物でアロマウォーターを作ろう」は、今年度もモミジバフウの蒸留を実施しました。蒸留は紅葉した葉っぱをちぎって使いましたが、少し甘いようないい香りがしていました。博物館のフウは緑色ですが、ちょっと違って、さわやかな青りんごに近いような香りがしていました。

今回は県外から来られたお客様や以前から何回かきて下さっているお客様が来てくださいました。蒸留器が小さくなったのでフウの葉をちぎって釜に入れてもらうところから参加して頂きました。蒸留水と合う精油を選びながらスプレー作りを楽しんで頂きました。

蒸留した後の釜の水は、真っ赤だったフウの色素が溶けだしていたので、その中に試しに布やタオルを浸して、染めてみました。ピンクベージュのような色に染まっていました。

午後から、12月6日のしめ縄作りに使う藁の準備をみんなでした。お天気がよく、作業もスムーズにできました。

【参加者の感想】

- ・今回のフウは思った以上に香りがよく、梅みたいな杏みみたいな甘酸っぱい香りでした。
- ・参加してくださったお客様と気持ちの良い秋のひとつでした。



■11月23日(日) 午前10:00～午後15:00 参加者: 9名

活動内容: 柚子胡椒作り(琵琶湖博物館 実習室2)

一昨年、昨年と2年続けて七味作りに挑戦しましたが、そのメンバーが中心となり、今年は柚子胡椒作りに挑戦しました。

柚子胡椒は、青い柚子と青唐辛子で作りますが、時期が少し遅く、柚子がだいぶ黄色になってしまいました。

柚子胡椒は柚子の皮の表面と唐辛子を細かくして、塩を加えて作ります。皮を細かくする方法として、

①柚子の皮を直接おろし金で削る ②柚子の皮をピーラーで剥き、ミルサーで細かくする ③柚子を丸ごとフードプロセッサーに入れ、表面が削れるまで回す といった3種類のやり方でやってみました。結論は、どのやり方でもいいんじゃないかということになりました。青唐辛子は肌に触れるとピリピリするので、必ず手袋(必要なら眼鏡も)をして作業することに気がつけました。

柚子の皮、青唐辛子、塩を混ぜて、煮沸した瓶に入れ1週間ほど寝かせて完成です。

柚子の果汁は、絞って醤油、鰹節、昆布を合わせて、手作りポン酢を作りました。柚子の種は、醤油につけておくと種のペクチンの効果でトロットしたポン酢になるのじゃないかと思い、実験的に作ってみました。その他、種は焼酎なのに漬けたものを薄めて化粧水も作れるので、持ち帰って挑戦するメンバーもいました。柚子は捨てる場所がなくとても優秀です。

その後、出来上がった柚子胡椒やポン酢を使った料理を、グループで共有しました。

例) クリームチーズに柚子胡椒を添えて、カブと柿のサラダに柚子胡椒で、鮭の手作りポン酢焼きなど...

【参加者の感想】

- ・柚子は皮も身も余すところなく活用し、寒い季節を迎えるこの時期にピッタリの活動でした。
- ・大量の柚子と唐辛子の下処理にどれほどかかるだろうと思いましたが、喋りながら手を動かしているとみるみる作業ができていきました。



【活動予定】

- ・12月6日(土) 10:00～15:00 しめ縄作り(生活実験工房)
- ・12月14日(日) 10:00～12:00 琵琶湖博物館 しめ縄作り 協力



(18) 虫架け

【活動報告日の活動会員数(のべ) 12 名】

グループ担当職員: 今田 舜介

【活動報告】

■ 11 月 15 日(土) 10 時～12 時 参加者: 12 名(一般参加者 27 名) 滋賀県立琵琶湖博物館

11 月例会は、「びわ博フェス」でのワークショップを実施しました。

当日は晴天に恵まれ、屋外で実施することが出来ました。受付開始は 9 時 30 分でしたが、その 7 分後には定員の 10 家族に達してしまいました。最初に土壌中の虫を探し、吸虫管で採集、その後で採集した虫を実体顕微鏡で観察していただきました。

みなさん熱心に取り組まれ、楽しんでおられたようです。



このほか、「びわ博フェス」ではポスター発表も行いました。また、「びわ博子ども若者研究発表交流会」で会員が発表を行いました。

また、「虫架け通信」86 号を発行し、昆虫に関する知識や各メンバーの報告を共有しました。

【活動予定】

これからも1か月に1回程度の野外調査や室内勉強会を行う予定です。観察・採集などをして、滋賀県内の昆虫の分布調査をしたいと考えています。

(文責: 梶田)



(19) 森人(もりひと)

【活動報告日の活動会員数(のべ) 29 名】

グループ担当職員: 林 竜馬

【活動報告】

■ 9 月 27 日(土) 外部観察会 in 春日山公園(堅田) 10 時～14 時 参加者: (会員) 6 名

久しぶりのお出かけ植物観察です。森人としては初めて大津市の春日山公園に行きました。駐車場を出るとまずアレチノスズビトハギとイノコズチ(どちらもくつき虫です)の大々的な出迎えを受けました。気を付けないと……。

坂道を登っていくとぷっくりと丸いドングリがいっぱい。クヌギやアベマキがたくさん落ちていました。みんなで実や殻斗、葉っぱなどを比べてじっくり観察しました。他のドングリはまだ少し早かったです。

さらに先へ進むと赤い実をつけたガマズミ、グー・チョキ・パーの葉を持つカクレミノ、ウリカエデ、カツラ、ハゼ、アラカシなどの樹木、スズメウリ、アカネ、ヒヨドリバナ、ハシカグサ、ヤブツルアズキ、ミゾソバ、シロバナサクラタデ、ノアズキ、ミソハギ、アオミズ、イボクサ、ガガイモ、アメリカセンダングサ、ヒレタゴボウその他たくさんのかわいい花や実をつけた草花、そしてウラギンシジミ、ハンミョウ、枯葉の中に身を隠したカエルなどにも出会いました。仲間の披露した知識や蘊蓄を楽しみながら時の過ぎるのも忘れる楽しいひと時でした。



■10月11日(土) 外部観察会 in 京都府立植物園 10時～15時 参加者(会員)7名+見学1名(博物館職員)林

前回に引き続きお出かけ観察で、京都府立植物園に行きました。植物園は昨年100周年を迎え日本一の観覧温室を持っています。春に一度雨で中止になっているのでお天気が心配でしたが、今日は曇り、それほど暑くなく快適に過ごせました。

まず、北山門を出発して観察しながら観覧温室を目指すことにしました。ヌマスギに始まりイチゴノキ、カラコギカエデ、アメリカサイカチと右に左にみんなを惹きつける植物が現れてなかなか前に進みません。

やっとのことで温室に到着、世界最大の花、ラフレシアの標本が出迎えてくれました。

温室は回遊式で順路に従って次々と景観が変わり、熱帯のあらゆる植生のほか、夜の植物の生態や高山植物も見られました。コメツブノボタン、サガリバナ、ベニヒモノキ、色々な食虫植物、奇想天外など、熱帯、亜熱帯の植物は色鮮やかなものや不思議な形をしたものなどその造形美に驚きと感動の連続でした。高山植物の部屋に移ったときは涼しいのと日頃見慣れた光景にホッとしました。

最後にメンバーのIさんからこれだけは是非見て帰ってほしいと3本の木を紹介されました。一本目は絶滅寸前のレバノンスギ、二本目は世界一高くなるセコイア、三本目は「20世紀最大の大発見」と世界中が興奮した恐竜時代のジュラシックツリーと言われるナンヨウスギでした。そしてなんと最後の最後にフジバカマにやってきたアサギマダラに出会って感動のうちに植物園を後にしました。



■10月25日(土) 研究交流室にて会議 10時～12時 参加者:(会員)4名(博物館職員)林

① クイズラリーの問題を決める。

過去の問題を参考にして、残したい問題、新しく取り入れたい問題について話しあい、素案をまとめた。

② 今年は受付場所にてフォレストマスターのキャラクターの名前の投票を実施する。

Mさんが作ってくれたパネルの素案をもとに内容を検討。

③ ドングリプレゼントについて現在の集まり具合を確認。

■11月8日(土) 研究交流室にて会議 10時～12時 参加者:(会員)6名(博物館職員)林

びわ博フェスで実施するクイズラリーについての最終確認。

① クイズ問題の最終確認。

② クイズ地点を実際に歩いてみて、軽く清掃。また、問題点を探し、対処法を考えた。

③ 持ち寄ったどんぐりが足りているかを確認。

④ フェス当日に必要なもの、スケジュールの確認。

久しぶりにメンバー全員が揃い活気のある話し合いになりました。屋外展示の樹木板の見直しの際に見掛けた枯れ枝やクモの巣など森の整備をハチの活動が終わり次第、早い時期に必要と感じました。

■11月15日(土)・16日(日)びわ博フェス 2025に参加 参加者:(会員)6名 (博物館職員)林

★15日～16日アトリウムにてポスター展示

★16日 森のクイズラリー開催 10時～16時30分(準備時間を含む)

樹幹トレイルと屋外展示を歩いて9つのクイズにチャレンジしてもらいました。

10時に集合し、クイズ地点の確認と清掃、問題パネルの取り付け、受付場所の設営、参加者が来られた時の段取りの確認などを行いました。今回は「森人」のキャラクター名の投票も同時に行うことにしたので、そのパネルも設置しました。

12時40分にクイズラリーをスタート。お天気もよかったのでたくさんの参加者があり150枚用意した問題用紙もすべてなくなり、15時30分に終了しました。参加者は300人ほどでした。キャラクター名投票の結果は①もり坊、ひとみんが83票 ②ジョウくん、やよいちゃんが53票 ③ふうくん、かえでちゃんが122票で、「ふうくん、かえでちゃん」に決定しました。後始末、反省会をして16時30分に解散しました。



【今後の予定】

■12月13日(土)フォレストマスター1、2月号発刊の準備など

■2026年冬季は、毎年恒例ソル植物の除去など森の整備活動などを予定。

行替 道天

(20) 琵琶湖梁山泊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 1名】

グループ担当職員:大塚 泰介

【活動報告】

11月16日に行われた「びわ博子ども若者研究発表交流会」で、琵琶湖梁山泊の唯一の会員(中2)が、「琵琶湖の小さな生き物を観察する会」で友達になった同学年の仲間と共に研究発表しました。

発表タイトル:ミジンコの甲殻表面における模様の種によっての違い

この発表会には小4から高1までの自由研究の猛者たちが集まり、たいへんレベルが高い自由研究の成果を発表していました。その中でも彼らの発表は異彩を放っており、取材に来ていた記者さんにも驚かされていました。そして午後の交流会では、伊吹山山頂付近のカツムリの種ごとの分布を徹底して調べた小学生(!)の姉妹と意気投合し、盛り上がっていました。

彼らは相変わらず「琵琶湖の小さな生き物を観察する会」で、プランクトンや付着藻類の観察にいそしんでいます。同会に集う同年代や年上の仲間とともに、自分たちが進めている研究の話で盛り上がっています。

【活動予定】

琵琶湖梁山泊では、引き続き個人活動を継続するとともに、新規会員を大募集します。他のはしかけグループに所属して研究を進めている中高生の諸君、同年代の仲間たちと研究を進めてみませんか?特に「びわ博子ども若者研究発表交流会」で発表した皆さんや琵琶湖トラストなどの「ジュニアドクター育成塾」を卒業した高校生、研究が進展しすぎて先生の手にも負えなくなった中高部活の集団参加も歓迎します。まずははしかけ登録をして、はしかけ代表アドレスにご連絡を。集え梁山泊へ!

【活動報告】

■ 11月8日(土)13:00~14:00 新メンバーを迎えての打合せ

場所: 琵琶湖博物館会議室

参加者: 2名 (はしかけ2名)

はしかけ登録講座の参加者で興味をお持ちの方があったので、コロナ禍以前の活動内容について説明し、どういうことに興味をお持ちなのかといったことをお伺いしました。

■ 11月16日(日)びわ博フェス参加

場所: 琵琶湖博物館うみっこ広場

参加者: はしかけ1名、一般来館者約90名

ワークショップで「小型水槽による琵琶湖深呼吸の実験」と「回転椅子を使った角運動量保存の実験」を実施しました。また、4年前のギャラリー展示のパネルのうち環流と深呼吸の部分を掲示しました。

隣で実施していた「動物とのふれあい教室」を目指して多数の方が来ていたこともあり、水槽を置いておく「何だろう」と何人か寄って来て、その人相手に実演しているとさらに寄ってくるという要領で、「深呼吸の実験」を10回以上の実演することができました。

興味を示している様子の方には「角運動量保存の実験」も行いました。こちらは1人ずつの実験になることもあり、参加者は10人弱です。



【活動予定】

■ コロナ禍以前と同じような活動は進められない状況が続いていますが、興味を持ってくださる方からは継続的に声をかけていただいていますので、この状況でどのような活動展開が可能かを模索しています。

(戸田 孝)

【活動報告】

■ 令和7年11月7日(金) 9:00~12:00 晴 参加者 6名

1. 活動先: 東近江市建部北町「河辺いきものの森」

2. 調査内容

今回は東近江市建部北町にある「河辺いきものの森」の中に残る「猿尾」の現地調査を行った。

3. 調査結果

「猿尾」とは川の水勢を抑えるために岸から川の中央部に向けて突き出すように土手堤を造る治水工法を指し、木曽川に複数の典型的な痕跡がみられるが、滋賀県下でも愛知川で一部存在が確認されている。前回、「すこやか杜」隣接地(小田切町)に残る「猿尾」は民間所有地の森の中にあつたため、存在が確認できなかったが、今回、県立博物館の情報も得て、「河辺いきものの森」の中に残っている「猿尾」の痕跡を確認した。

「河辺いきものの森」は、愛知川沿いに広がる河畔林で、古代から洪水被害を軽減する役割と、薪などの燃料や日常使う資材の、採取場所としての役割を併せ持っていた。現在は東近江市で森の保全管理がなされているところである。

この森の中に昔造られた「猿尾」の痕跡が残っていて、説明看板も立っていた。看板と具体的な現地説明がない限り見過ごしてしまうような場所である。説明板を見てから、よく観察すると土手状に盛り上がった部分が森の中に続いていることが確認

できる。周りの植生で判りにくいですが、20～30cm程度の川原に在ったと思われる丸石が積み上げられて土手になっている痕跡と、その周辺には崩れた丸石が散乱していて、明らかに周囲の平地と異なっていることが観察できた。

また従来から存在が確認されていた「猿尾」に加えて、最近新たに森の南側で、古来の愛知川堤防に近いと思われる位置で同じような「猿尾」の痕跡が発見され、その現地も確認することができた。古人の自然への対応力のすごさは、しっかり、後世に残す事例である。



□「猿尾」の説明板



□「猿尾」の現状(右上部の堤)



□「猿尾」の痕跡



□ 新たに発見された「猿尾」

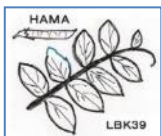


□別角度からの「猿尾」



□「いきものの森」の中の湧水

執筆者 小篠 伸二



(25) 海浜植物守りたい

【活動報告日の活動会員数(のべ) 11名】

グループ担当職員:大槻 達郎

【活動報告】

* 2025年9月2日(火) 9時30分～11時30分

天候:晴天 気温:33℃(9時30分)琵琶湖の水位:-34cm 参加者:9名(本日より1名の入会者あり)

新海浜の状況 * 空は青く秋の気配がするが気温は33度と高く暑い。対岸の山はスキッと見える。波も穏やかで水も澄んできれい。水位が下がり波打ち際も浜もきれい。

定点観測



今日の琵琶湖



ハマエンドウ



ハマゴウ

海浜植物の生育状況

* **ハマエンドウ** 全面的に枯れている。東側の松の木の下や観察中の草の中は辛うじて持ちこたえている。新芽はしっかり根付いているものもあるが枯れているものも多い。地温も高くカサカサで敷いた松葉が目立つ。西側の保護区域外はチガヤとハマゴウが繁茂しハマエンドウが目立たなくなってきた。

*ハマゴウ 葉は枯れかけて種がついている。花もまだ少し見られる。保護区域内(北側琵琶湖側も大きくなってきた。少し伐採するか検討の必要あり)

*ハマヒルガオ 所々緑の葉をつけている

今日の作業内容 ①ミーティング(新会員の自己紹介・活動内容等説明) ②保護区内除草(オオフトバムグラ等)
③保護区域外駆除(ハリエンジュ・ツルニチニチソウ・タケノコの地下茎) ④放棄ゴミの撤去
⑤ネナシカズラは今回も見当たらない。



ハマエンドウ
(入り口付近の新芽)



草の中のハマエンドウ



ハマゴウの種と花



ハマヒルガオ

* 2025年9月19日(金) 9時30分～11時30分

天候:晴天 気温:25℃(9時 30 分) 琵琶湖の水位: -39cm 参加者:8名

新海浜の状況 *うろこ雲がわき、季節は秋。対岸の山はスキッと見える。波は少し荒く浜に寄せている。
風が運んだ水草が浜に打ち上げられている。草もあまり見当たらない。

定点観測



9月19日の琵琶湖



ハマエンドウ



ハマゴウ

海浜植物の生育状況

*ハマエンドウ 雨が降らないためか、前回実施した9月2日より緑が少なく敷いた松の枯れ葉が目立つ。新芽があちこちに根付いてきて葉も緑が濃くなってきた。反面枯れてしまった株も多い。西側の保護区境界に新芽が増えてきた。

*ハマゴウ 葉は枯れかけて種がついている。種も黒ずんできた。花はまだ少し見られる。

*ハマヒルガオ 広い範囲で広がってきた。

今日の作業内容 ①ミーティング(助成金の申請について・情報交換)。仲間も増え情報や話題がたくさん出て和気藹々と共有できた。②保護区内除草(オオフトバムグラ等)。③保護区域外除草(ツルニチニチソウ等)。④駐車場側の草刈り。⑤ネナシカズラは今回も見当たらない。気温も下がり浜風が心地よく作業がしやすくなった。



ハマエンドウ
(琵琶湖側松の木の下の新芽)



ハマゴウの花も少し見られる



ハマヒルガオが広がってきた

*** 2025年10月7日(火) 9時30分～11時30分**

天候:曇天 気温:24℃(9時 30 分) 琵琶湖の水位:－52cm 参加者:8名

新海浜の状況 *すっかり秋空で雲が多い。対岸の山は霞んでいる。水は澄み波も穏やかに寄せている。風が運んだ水草が浜に打ち上げられている。ヒガンバナが終わりの時を迎えている(昨年より少し遅い。)

定点観測



10月7日の琵琶湖



ハマエンドウ



ハマゴウ

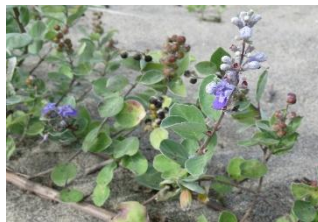
海浜植物の生育

- *ハマエンドウ 依然として松の枯れ葉が目立つが、育成しているものは葉も緑が濃くなってきた。最近、出てきたものだろうと思われるものがあちこちに見られる。
- *ハマゴウ 種も黒ずんできた。花もまだ少し見られる。
- *ハマヒルガオ 葉の緑も濃く広がっている。

今日の作業内容 ① ミーティング(体験入会者の乾燥。枯れた松の伐採計画・助成金の申請・情報交換) ② 枯れた松の葉の採取(保護区中央に散布) ③ 保護区域外除草(ツルニチニチソウ等) 保護区内除草(オオフタバムグラ等) ④ ネナシカズラは今回も見当たらない



ハマエンドウ
(新芽も葉を広げている)



ハマゴウ
(種も黒くなり花もみられる)



ハマヒルガオ



ヒガンバナ

*** 2025年10月24日(金) 9時30分～11時30分**

天候:晴れ時々曇り 気温:18℃(9時 30 分) 琵琶湖水位:－56cm 参加者:4名

新海浜の状況 *波は静か、天気がよく空気が澄んでいるせいか伊吹山、比良山系他の山並みが眺望できる。

定点観測



10月24日の琵琶湖



ハマエンドウ

海浜植物の生育

- *ハマエンドウ:松やセンダンの日陰の所は広がっている。
- *ハマゴウ:花がまだところどころで咲いている。

今日の作業内容 ①主に保護区内の枯松の伐採を行った(伐採本数 8本)。さらに、枯れた松葉を採取して、伐採により日向になるハマエンドウの上に敷きつめた。②れんげ草の種まき。③今回は雑草の除草はなし。

保護区内外の状況(写真)



枯れ松を伐採後のスカスカ状態



土を掘り返しレンゲを植えた



ところどころハマゴウが咲いている

以上

3. はしかけさんが活躍する琵琶湖博物館イベント情報(12月～2月)

※事前申し込みが必要なイベントもございます。また、日程、内容等変更になっている場合もございますので、
必ず事前に琵琶湖博物館ホームページで詳細をご確認ください。

タイトル	内容	期日	曜日	時間	場所	備考
【わくわく探検隊】 葉っぱのランタンをつくろう！	様々な葉を採取した後、葉の特徴を生かしたランタンづくりをします。葉の色や形、模様の特徴や、その樹木について博士に教えてもらいます。	2025年 12月13日	土	13時30分～ 15時00分	琵琶湖博物館 実習室2	※定員 15名(先着) ※当日受付(13時～)受付は実習室2で行います。 ※雨天決行
【田んぼ体験】 生活実験工房 田んぼ体験 しめ縄づくり	生活実験工房の水田を利用して、昔ながらの農家の暮らしや生活、農作業に触れて頂くことを目的とし、その一環として、しめ縄づくり作業を体験して頂きます。	2025年 12月14日	日	10時30分～ 12時00分	琵琶湖博物館 生活実験工房	※定員 20名程度(要事前申込、多数の場合は抽選) ※小学生以上 ※多少汚れてもよい服装をご準備ください。
ちこあそ・12月 (ちっちゃな子どもの自然遊び)	博物館の森の中でゆっくりと過ごしなが、五感で触れて、楽しんで、自然の面白さを体験する遊び場です。 12月もまだまだ元気にそとあそび！	2025年 12月17日	水	10時00分～ 14時00分	琵琶湖博物館 生活実験工房	※定員 10組(先着) ※事前申込みの上、10時～14時の間でご都合のよい時間帯にお越しください。
地域の魅力の再発見 連携講座	自然と関わる多様な知恵や工夫などを紹介し、地域の魅力を再発見するための連続講座を開催します。	2025年 12月21日	日	14時00分～ 15時00分	琵琶湖博物館 会議室	※定員 20名(要事前申込、多数の場合は抽選) ※中学生以上
【わくわく探検隊】 綿にふれてみよう！	昔の道具を使い、綿花から糸をつむぐ体験をします。当時の人々の知恵や努力を感じながら、綿がもつ自然の柔らかさに触れます。	2026年1月 10日	土	13時30分～ 15時00分	琵琶湖博物館 実習室2 生活実験工房	※定員 15名(先着) ※当日受付(13時～)受付は実習室2で行います。 ※雨天決行
ちこあそ・1月 (ちっちゃな子どもの自然遊び)	博物館の森の中でゆっくりと過ごしなが、五感で触れて、楽しんで、自然の面白さを体験する遊び場です。 1月は森の中で冬越しの虫たちがいるかも。	2026年 1月28日	水	10時00分～ 14時00分	琵琶湖博物館 生活実験工房	※定員 10組(先着) ※事前申込みの上、10時～14時の間でご都合のよい時間帯にお越しください。
地域の魅力の再発見 連携講座	自然と関わる多様な知恵や工夫などを紹介し、地域の魅力を再発見するための連続講座を開催します。	2026年 1月25日	日	14時00分～ 15時00分	琵琶湖博物館 会議室	※定員 20名(要事前申込、多数の場合は抽選) ※中学生以上

【田んぼ体験】 生活実験工房 田んぼ体験 わら細工	生活実験工房の施設を利用して、昔ながらの農家の暮らしや生活、農作業に触れて頂くことを目的とし、その一環として、わら細工作業を体験して頂きます。	2026 年 2月8日	日	10 時 30 分 ～ 12 時 00 分	琵琶湖博物館 生活実験工房	※定員 20 名程度 (要事前申込、多数の場合は抽選) ※小学生以上 ※多少汚れてもよい服装をご準備ください。
【わくわく探検隊】 水鳥を観察しよう！	双眼鏡やフィールドスコープを使って、琵琶湖に飛来する水鳥を観察します。普段何気なく見ている鳥たちの様々な違いに気づくことができるプログラムです。	2026 年 2月 14 日	土	13 時 30 分 ～ 15 時 00 分	実習室2 C 展示室 樹冠トレイル	※定員 15 名(先着) ※当日受付(13 時 00 分～)受付は実習室 2 で行います。 ※雨天決行
ちこあそ・2月 (ちっちゃな子どもの自然遊び)	博物館の森の中でゆっくりと過ごしなが、五感で触れて、楽しんで、自然の面白さを体験する遊び場です。 2月は雪が降るかな。	2026 年 2月 18 日	水	10 時 00 分 ～ 14 時 00 分	琵琶湖博物館 生活実験工房	※定員 10 組(先着) ※事前申込みの上、10 時～14 時の間でご都合のよい時間帯にお越しください。
はしかけ登録講座 (オンライン)	琵琶湖博物館のはしかけ制度の概要を説明するとともに、はしかけ各グループの活動内容を紹介します。また、はしかけ制度への入会手続きを行います。	2025 年 2月 22 日 ～3月8日	-	左記期間のうち任意の時間(1 時間 30 分程度)	オンライン	※登録にはボランティア保険料 350 円が必要 ※要事前申込

4. 生活実験工房からのお知らせ

12 月 14 日に「しめ縄づくり」のイベントを開催します！(本号発行時には開催済み)
イベントの開催にあたり、今回も多数のはしかけ会員の方から応援・サポートを頂く予定で、非常に楽しみです。

「しめ縄づくり」は毎年大好評のイベントで、今回も定員を大幅に上回る多くの方にご応募いただきました。設備の関係で、ご応募いただいたすべての方にご参加いただくことができないのが非常に残念なのですが、生活実験工房では、来年2月にも収穫したわらをういた「わら細工」のイベントを予定しています。

ご興味のある方は、琵琶湖博物館ホームページのイベント情報でご確認の上、是非お申し込みください。https://www.biawahaku.jp/event/2026/02/post_2032.html

【活動予定】

2月8日(日) 田んぼ体験 わら細工 (於 琵琶湖博物館生活実験工房)

※申込期間 : 2025 年 12 月 9 日(火)～2026 年 1 月 27 日(火)

(環境学習・交流係)



▲昨年のイベントで作成したわら細工

5. その他の事項

(1) はしかけグループの活動に初めて参加する場合

ニュースレター発行後、活動日・活動場所が変更になる場合があります。グループの活動に初めて参加する時は、事前に各はしかけグループの担当者に確認をお願いします。メールの場合はグループ代表アドレスまでご連絡ください。なお、グループ代表アドレスは事務局(hashi-adm@biwahaku.jp)までお問合せください。

(2) 名札(会員証)の写真について

名札(会員証)の写真を更新されたい方は、はしかけ制度担当者 hashi-adm@biwahaku.jp まで送って下さい。ただし、必ず本人確認ができるものに限りです。

(3) はしかけ会員証の携帯のお願い

はしかけ活動で来館する場合は、必ず会員証を持参してください。会員証を携帯せずに活動することはできません。

(4) はしかけ活動中に事故が起こったら

はしかけ会員は、ボランティア保険に加入する必要があります。加入時に、ボランティア保険加入カードが各自に配布されますので、活動中に事故などが発生した場合には、加入者カードに書いてある連絡先(社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会 TEL: 077-567-3920 FAX: 077-567-3923)へ、速やかに連絡してください(各人で連絡)。

なお、手続きには、グループ担当職員(学芸員)の活動証明が必要ですから連絡してください。

詳しくは、最新年度の「ボランティア保険」パンフレットをご覧ください。「ボランティア保険」のパンフレットは、はしかけ事務局(博物館事務学芸室)にも置いています。